

復興 ニッポン cha・cha・cha !

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする < 支え合い、助け合い、協働 > のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの？」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。（※chaは「care」「help」「act」の頭文字）

発行：仙台市災害ボランティアセンター

◆災害ボランティア・スナップ◆

被災者の方を応援するため、1日でも早く普段通りの生活を取り戻していただくため、活動する災害ボランティア。活動の様子を、写真でお伝えします。



●写真左／北部津波災害ボランティアセンターは、元気フィールド仙台・宮城野体育館内にあります。

同じ館内に避難所もあり、左手の扉は避難所専用。

●写真中／センター前に咲いていたヤマブキ。日差しへと顔を向ける花が、元気を届けてくれます。

●写真右／最寄の JR 小鶴新田駅の改札を出ると、目の前に「北部津波災害ボランティアセンター」の看板。はじめての人も迷わずに行けます。



↑写真／北部津波災害ボランティアセンターにある、貸し出し用の資機材。

長靴、ヘルメット、自転車、胴長、軍手をはじめ、必要な道具がそろっています。



←写真／さて、これは？

使い終わった胴長の手入れ法も「このように中に新聞紙を入れてください」と具体的に見本が。

◆◆◆北部津波災害ボランティアセンター◆◆◆

北部津波災害ボランティアセンターは、仙台港の南側にある蒲生地区や岡田地区などへボランティアを派遣。活動に必要なスコップや一輪車などが集められ、県内の他のボランティアセンターへの貸し出しも担っています。

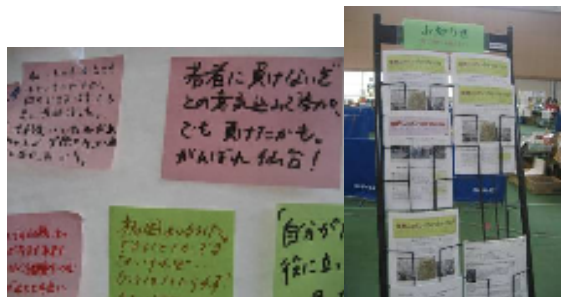
▼写真で見る活動フロー▼

①受付入口



(北部津波災害ボランティアセンターの受付入口で、「活動の流れ」を確認。)

④待ち時間に掲示物チェック



(掲示されたボランティアの声や情報誌なども見られます。)

②受付用紙の提出



(「ボランティア受付用紙」を記入したら、新規受付または継続受付へに用紙を提出。)

⑤派遣先が決まれば、道具を借用



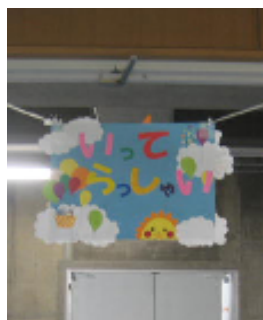
(ボランティア要請を受けて、活動に必要な資機材を支援班で借ります。)

③奥のイスで待機



(受付を済ませたら、イスにすわって待機。)

⑥出発！



(いよいよ出発！現場へ向かいます。)

⑦裏方はメンテナンス作業



(現場で気持ちよく活動できるように、センターに残った運営スタッフは手袋干しや道具の修理など、メンテナンス。)

⑧活動から帰着

(活動を終えて戻ってきたら、資機材の手入れ。)



(手袋は洗ってから裏返し、空気入れでパフッと広げて乾かしやすくします。)

⑨道具の手入れ



(「ワケルモービル」から水を引き、高圧洗浄機で一輪車やスコップを洗います。)

●運営スタッフの声● 北部津波災害ボランティアセンター 副センター長 庄子克彦さん

ボランティア数が最も多かったのは、5月3日と4日。約400人が参加しています。通常は新規が1割ですが、連休中は5割。復興に参加したい人が一気に増えたことになります。連休前は学生が多かったのですが、連休中は社会人、現在は社会人と主婦の方が多くなっています。人数は、連休明けに急激に少なくなって、93人にまで減りました。

悩みは、人手不足もありますが、ニーズがこちらに伝わってきていない状況もあります。地域コミュニティの方が、がんばりすぎているのかもしれませんが。気軽に手を挙げてもらえばよいのですが。そして、ニーズへの応え方も悩みどころです。もともと社協のボランティアセンターの意義は、地域コミュニティの再生と、ボランティア受付窓口としてスキルがあること。現場にいるほど、住民に近くなります。センターの基本は、住民の方々が家に戻れることを優先していますが、どこまでボランティアが行えばいいのか、その判断は悩むところです。(取材後、5月10日から仙台市外、県外からのボランティア受付を開始。週末は約200人が参加しています。)

⑩うがい・手洗い (活動後は、衛生管理のため、うがいや手洗いも欠かせません。)



(そろいのユニフォームは、企業からのボランティア。)

⑪おかえりなさい



(「おかえりなさい」に迎えられ、資機材を返却。)

⑫活動報告



(グループのリーダーが、報告を終えて解散。おつかれさまでした。)

仙台市災害ボランティアセンターの概況

●仙台市では、のべ約38,000人のボランティアスタッフが活動してくださいました！ありがとうございます。

センター名	のべ人数	開所期間
青葉区災害ボランティアセンター	3,569人	3/20～4/24
宮城野区災害ボランティアセンター	8,248人	3/15～4/26
若林区災害ボランティアセンター	9,095人	3/16～4/26
太白区災害ボランティアセンター	2,998人	3/19～4/24
泉区災害ボランティアセンター	2,996人	3/26～4/24

センター名	のべ人数	開所月日
仙台市北部津波災害ボランティアセンター	6,496人	4/27～
仙台市南部津波災害ボランティアセンター	4,766人	4/27～

※5/26 現在

●6/1から、2つのセンターを統合して仙台市津波災害ボランティアセンターとして津波被害地域全体の支援を行います。

詳細情報はWEBで確認してください。<http://www.ssvc.ne.jp/>

＜仙台市津波災害ボランティアセンター＞

設置場所 元気フィールド仙台・宮城野体育館（仙台市宮城野区新田東4-1-1）

電話番号 要請用（ボランティアに頼みたい方）：022（231）1320

希望者用（ボランティアをしたい方）：022（231）1326

編集後記

被災されたが方々に対して献身的な復旧支援を続けてきたボランティア。その活動の源泉は“志の第一歩”です。時間の経過とともに地震被害から津波被害へとシフトしている中で開設されたのが「津波災害ボランティアセンター」。余震、再度の津波に対しての備えながらのセンター運営の難しさがありましたが、より被災地に近いところでの支援が可能になりました。南部センターについては、地元の町内会の協力、企業の社会貢献活動により短期間でセンターを設置することができました。被災者の心を支えたいという“仙台チューリップ大作戦”という新たな第一歩。多くの志を多様な行動に広げて欲しいと思います。なお、私は災害ボラセン運営側からボランティア広報班へと立ち位置を転じています。（佐々木伸）

発行：仙台市災害ボランティアセンター 広報班 黒田

TEL022-262-7294 <http://www.ssvc.ne.jp/> 当紙がWEBで読めます！

編集：広報ボランティアチーム 遠藤、大谷、木村、佐藤、茂木、山田、佐々木

連絡先：仙台市災害ボランティアセンター Eメール sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp

